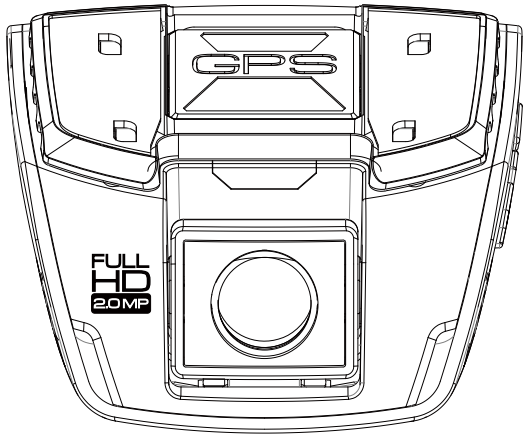
ver.2.00

安全運転支援機能付き

ドライブレコーダー

録ドラドラ6

型番:DD-06



取扱説明書

このたびは「ドラドラ 6」をご購入いただきまして、誠にありがとうございます。
本製品を正しく使用していただくために、事前にこの取扱説明書をお読みください。
ユーザーの安全と製品の機能を説明している「安全に関する注意」は、特に注意してお読みください。
この取扱説明書と保証書は、大切に保管してください。

※本取扱説明書は、シリアルナンバーが「S」で始まる番号の製品を対象としています。
※取扱説明書に記載されている画面表示ならびに写真は、実際の製品と異なる場合があります。
※本取扱説明書の内容は、予告なしに変更される場合があります。
※最新の取扱説明書は、JAFMATE社のホームページ（http://www.jafmate.co.jp/dr/）でダウンロードいただけます。
※本製品の仕様及び外観は、改良のため、予告無く変更することがあります。
※記載されている会社名、製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。

JAFMate

〈 故障に関するお問い合わせ 〉

故障に関するお問い合わせの前に、本取扱説明書をご覧ください。

▶38ページ「故障かな?と思ったら」をご覧ください。

ホームページも、あわせてご覧ください

▶製品情報ページ http://www.jafmate.co.jp/dr/

〈 それ以外のお問い合わせ 〉

■ドラドラ・サポートセンター 0570-088-108
ナビダイヤルがご利用になれない場合は、03-3513-6564
土日祝を除く10時～13時、14時～17時

〈 製品情報ページ 〉

※製品情報ページ（http://www.jafmate.co.jp/dr/）には、製品のFAQとともに、
製品の詳しい情報やソフトウェアのアップデート情報なども掲載しています。

ドライブレコーダー「ドラドラ6」 型番:DD-06
企画／株式会社JAF MATE社　東京都港区芝公園1-3-1　留園ビル6階
製造／CBC株式会社 東京都中央区月島2-15-13
Made in Korea

ドラドラ6の特徴

安全運転支援機能…映像とGPSデータをリアルタイムで解析することで実現した「前方衝突警戒」「車線逸脱警戒」「前車発進お知らせ」の各機能で、あなたの安全ドライブをサポートします。

ドライブレコーダー機能…万が一の時も衝撃検知でイベント録画するから安心。映像データは1920×1080ピクセルの高画質フルハイビジョン。オプションのリアカメラを接続することで、後方の状況等、2種類の映像を同時に記録できます。*1

タッチ式液晶画面…記録映像をその場で見られるのはもちろん、各種設定も液晶画面から可能。パソコン不要でもご利用いただけます。

GPS内蔵…GPSによる正確な時刻と速度データ、緯度経度情報を記録します。付属のドラドラ6・ビュアーを使えば、撮影場所を地図上で表示することも可能です。*2

*1　リアカメラの映像はVGAサイズ（640×480ピクセル）です。
*2　地図表示は、オンラインサービスのGoogle Maps®を使用します。
ドラドラ6・ビュアーを起動するパソコンがインターネットに接続されている必要があります。

さあ、今すぐあなたの愛車に
ドラドラ6を取り付けて、
安心カーライフをスタートさせましょう!

目 次

ご使用の前に
・本製品を使用する前に必ずお読みください…4
・同梱品…8
・各部の名称と機能…9

取り付け
・取り付けに際しての注意…10
・取り付け手順…11
・ケーブルの配線…12

動作確認と初期設定
・本体の起動…13
・車種設定…14
・取付位置の設定…15
・カメラ角度の設定…16

主な機能
・前方衝突警戒…17
・車線逸脱警戒…18
・前車発進お知らせ…19
・ドライブレコーダー機能…20

基本的な使い方
・電源のオン／オフ…21
・液晶画面の表示…22
・メニュー画面…23
・安全運転支援…24
・ドライブレコーダー…25
・映像再生…26

機能設定
・安全運転支援…27
・ドライブレコーダー…28
・各種設定…29
・セッティング…32
・カメラ角度の手動調整…33

ドラドラ6・ビュアー
・画面構成…34
・インストール方法…36

SDカードの取り扱いに関する注意…37
故障かな？と思ったら…38
製品仕様…39

ご使用の前に　本製品を使用する前に必ずお読みください

本章には、お客様に本製品を正しく安全にお使いいただくための重要な内容が記載されています。本製品を使用する前に、必ずよくお読みください。

⚠ 警告	警告を無視した取り扱いをすると、使用者が死亡または重傷を負う原因となる可能性があります。
⚠ 注意	注意を無視した取り扱いをすると、本製品が正常に動作しなかったり、使用者が傷害や物的損害を被る可能性があります。

⚠ 警告

- 本製品は、使用方法に間違いがない場合でも、事故発生の防止または被害軽減を図ることを保証するものではありません。安全運転支援機能は、ドライバーの代わりに安全運転を行ったり、すべての危険を警報するものではなく、あくまでドライバーの運転中の一部の危険等を警報でサポートするものです。安全運転支援機能を過信せず、走行中は運転操作に集中してください。万一、本製品を使用中に事故が発生しても、企画者、製造者、販売者は一切の責任を負いません。
- 本製品の分解、修理、改造は絶対にしないでください。分解、修理、改造や、本製品を誤使用すると、事故が発生する恐れがあります。分解、修理、改造や誤使用が製品故障の原因であると認められた場合、保証は適用されません。
- 本製品を水につけたり、水をかけたりしないでください。車内を掃除する場合、本製品に直接水がかからないようにしてください。製品の故障、火災、または感電を引き起こす恐れがあります。また、薬品や洗剤により、本体表面が変質したり、内部部品が損傷する恐れがありますので、これらも製品に触れないよう注意してください。
- 濡れた手で電源ケーブルの抜き差しをすることはおやめください。感電の恐れがあります。
- 運転者は走行中に本製品を絶対に操作しないでください。自動車事故の原因となります。必ず同乗者の方が操作を行ってください。
- 本製品は、運転や視界の妨げにならない指定の場所に取り付けてください。また、自動車の機能(エアバッグ等)の妨げにならない場所に取り付けてください。自動車事故や傷害、故障の原因となります。
- 本製品が破損･故障した場合、また熱くなる、焦げ臭い、煙が出る等の異常時は、すぐに電源を切り、使用を中止してドラドラ・サポートセンター（→裏表紙）に点検･修理を依頼してください。そのまま使用したり、内部等に触れると、火災･感電また取り付けた車の故障の原因となります。
- 本製品を医療機器の近くで使用しないでください。電磁波により医療機器に悪影響を与える可能性があります。
- 付属品の電源ケーブルのみをお使いください。付属品以外の電源ケーブルを使用した場合、機器の破裂や火災によって車両の破損やケガを負う恐れがあります。
- 定格電圧でご使用ください。定格電圧以外で使用した場合、機器の破裂や火災によって車両の破損やケガを負う恐れがあります。
- 製品や部品を子供のそばに置かないでください。子供のいたずら等で重大事故になる恐れがあります。
- 本製品を可燃性ガスの多い環境では使わないでください。爆発や火災のおそれがあります。
- エアバッグの近くにケーブル類を設置しないでください。エアバッグ展開時におもわぬ事故につながるおそれがあります。

⚠ 注意

- 本製品は、使用方法に間違いがない場合でも、安全運転支援機能の作動及び映像やデータの記録を完全に保証するものではありません。万一、安全運転支援機能が適切に作動しなかったり、映像やデータの記録ができなかった場合も、企画者、製造者、販売者は一切の責任を負いません。
- 本製品を取り付ける際には、取り付け面の汚れをきれいに拭き取ってください。また取り付け後は、取り付け状態に問題がないかをよく確認し、その後も定期的に点検を行ってください。取り付け状態に不備があると、走行時の振動等で本製品が外れて落下し、破損・故障する可能性があります。
- 安全運転支援機能を正常に機能させたり、映像を正常に記録するため、カメラのレンズや車両のフロントガラスは常に清潔にしてください。
- 安全運転支援機能は、GPSデータにより車速を検出します。GPSデータが受信できない場合は機能しません。
- 薄く着色されたフロントガラスでは、録画された映像の明るさや鮮明さに差異が生じます。フロントガラスをメタリックフィルム等で着色している場合、GPSデータを受信することができず、安全運転支援機能が正しく動作しない場合があります。
- 次のような状況では、安全運転支援機能が正しく動作しないおそれがあります。
  - 豪雨や濃霧を伴う荒天時
  - カーブが連続する道路
  - 積雪で車線が見えない道路
  - 路面の車線が消えかかっている道路
  - ダッシュボード上に置かれた物からの反射光によってカメラの視野が妨害されるとき
  - カメラのレンズ角度を水平ラインに正しく合わせていないとき
  - その他、カメラが安全運転支援機能に必要な映像データを撮影できない条件のとき
- 本製品はEMC(電子機器の電気的･磁気的な耐性および不干渉性)に適切に配慮し、国際規格(FCCクラスB)にも適合していますが、条件によっては干渉を受けたり与えたりする場合があります。EMCに関する影響が認められた場合は取り付け位置を変更し、それでも解決できない場合は使用を中止し、ドラドラ・サポートセンター（→裏表紙）へご相談ください。
- 本製品を落としたり、強い衝撃を与えないでください。故障の原因となります。
- 一部の自動車（特に輸入車に多い）は、エンジンを停止してもシガーソケットに常時電源が供給される仕様になっています。エンジン停止時にシガーソケットの電源がオフになることが確認できない場合は、降車される際に、シガーソケットから電源アダプタを抜いてください。
- 太陽等の高輝度の映像を記録すると、黒点のように映ることがありますが製品の異常ではありません。
- 本製品の近くに、磁石などの磁気を帯びた素材を置かないでください。故障の原因になります。
- 本製品を設置する場合、本体およびマウント部に必要以上に強い力を加えたり、ネジを締めすぎたりしないでください。故障の原因になります。

●本製品は幼児等にはふれさせないでください。
●本製品をいたずら等、悪意を持った目的では使用しないでください。記録した映像やデータの使用方法によっては他人の法的な権利を侵害する可能性があります。本製品で記録した映像やデータの内容、それによって起因した事項については、本製品の企画者、製造者、販売者は一切責任を負いません。
●本製品を有効に使用するには、パソコンとSDカードリーダーが別途必要になります。
●本製品はDC 12/24V車専用です。それ以外での使用は故障の原因になります。
●夏の強い日差しの下など、設計上の動作温度（70℃）を超える場合は、装置が正しく動作しなかったり、故障の原因になります。特に、真夏の車内は高温になるため、車内の温度にご注意いただき、炎天下に駐車する場合などは、本製品を取り外してください。
●SDカードは消耗品です。長期間使用し、不具合が発生した場合は、SDカードを交換してください。安定して使用するために、SDカードの定期的なフォーマットをお勧めします。
●SDカードを抜く時は必ず電源が切れていることを確認してください。SDカードに記録が行われている際に抜くと、画像やデータの損傷及び本体故障の原因となります。
●SDカードを挿入する際、向きを間違えないように注意してください。
●以下のような取り扱いをした場合、画像やデータが記録できなかったり破損する可能性があります。
・SDカードまたは本体に静電気や電気ノイズが加わった場合。
・SDカードを水にぬらしたり、曲げたり、強い衝撃を与えた場合。または不具合があった場合。
・動作中にSDカードを引き抜いた場合。
・パソコンでの操作時に誤った取り扱いを行った場合。
・長時間使用しなかった場合。
●保存が必要な記録データは、本体のSDカードとは別に保存してください。本体のSDカードに記録された映像などのデータは、ユーザーの不注意や修理によって損傷したり、消去されたりします。データの損傷や遺失について、本製品の企画者、製造者、販売者は責任を負いません。重要なデータは、別のメディアに保存してください。
●もし長期間使用しない場合には、ケーブルを本体から外してください。車両バッテリーの放電や火災が起きるおそれがあり、誤った使用により損害が発生しても、本製品の企画者、製造者、販売者では一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
●長期間にわたって製品を密閉された空間、炎天下、高温な環境に放置しないでください。火災や故障の原因となります。
●取扱説明書をよくお読みください。また、製品を取り付ける際は、必ず平坦な路上で行ってください。
●本製品のハードウェア、ソフトウェアの知的財産権は製造者が保有しています。無断複製等は、関係法規に基づき、民事上の損害補償及び刑事処罰の対象となります。

特徴 | 目次 | ご使用の前に | 取り付け | 動作確認と初期設定 | 主な機能 | 基本的な使い方 | 機能設定 | ドラドラ6ビュアー | SDカード | 故障かな？ | 製品仕様

⚠ 重要

※本製品の安全運転支援機能は、あくまでドライバーの運転をサポートするもので、事故を未然に防ぐものではありません。またすべての危険を警報するものではありません。本製品を使用中に事故が発生した場合でも、安全運転支援機能の作動有無、使用者の事情に関わらず、本製品の企画者、製造者、販売者は一切の責任を負いませんのでご了承ください。

※万が一の事故発生時に映像やデータが記録されていなかったり、もしくは破損していた場合でも、本製品の作動有無、使用者の事情に関わらず、本製品の企画者、製造者、販売者は一切の責任を負いません。

※本取扱説明書の内容に則さない使用を行った結果、発生した事故や本製品の故障に対して、本製品の企画者、製造者、販売者は一切の責任を負いません。

※本製品のドライブレコーダー機能は、事故発生時の参考資料として使用することを目的とした製品です。本製品で記録された映像やデータは、裁判等の証拠としての効力を必ずしも保証するものではありません。

※シガーソケット以外から電源をとった場合、本製品の企画者、製造者、販売者は一切の保証・責任を負いません。行う場合は自己責任にてお願いします。

※SDカードは必ず製品の付属品もしくは推奨品をご使用ください。付属品もしくは推奨品以外のSDカードを使用した場合の故障や損害等について、本製品の企画者、製造者、販売者は一切の責任を負いません。

ご使用の前に 同梱品

本体

マイクロSDカード
(16GB)
[本体に挿入されています]

SDカード
アダプター

取扱説明書

電源ケーブル
(5m、シガーソケット接続)

CD-ROM
(パソコン用閲覧ソフト「ドラドラ6・ビュアー」
セットアップファイル及び取扱説明書(PDF))

マウント

リアカメラ(オプション別売)

取付ブラケット

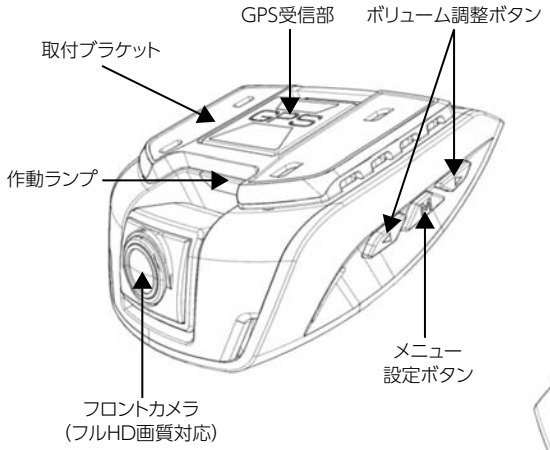
リアカメラ
(VGA画質対応)

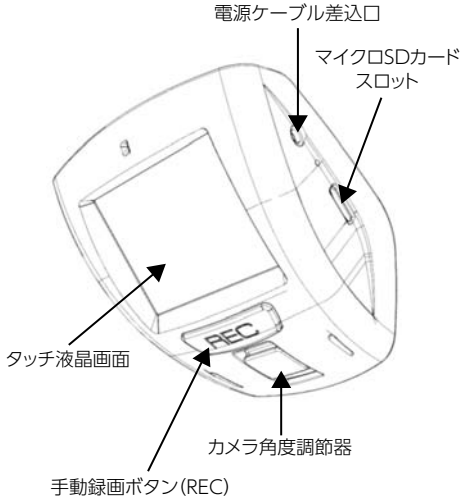
左右反転切り替え
スイッチ
(ミラーリング機能)

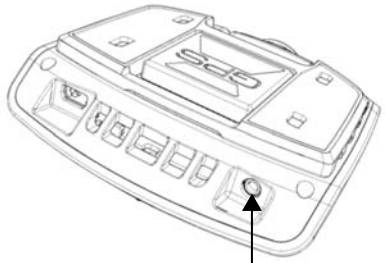
接続ケーブル
差込口

リアカメラ接続ケーブル
(7m)

ご使用の前に 各部の名称と機能







- 上記製品の仕様は予告無く変更する場合があります。
- 上記はあくまでイメージです。実際の製品の外観と異なる場合があります。

取り付け　取り付けに際しての注意

●本体の取り付け位置は、道路運送車両法等の関係法令に基づいて設置場所が指定されています。運転者の視界の妨げにならないように、フロントガラスの上端1/5以内（ルームミラー裏側が望ましい）へ設置してください。
●本体の取付位置は、フロントガラスの中央から左右20センチ以内になるように取り付けてください。20センチ以上離して取り付けた場合、車線を正しく認識できず、安全運転支援機能が正常に作動しません。
●フロントガラスの汚れ、雨天時の水滴などにより記録した映像が見づらくなることを防ぐためには、関係法令の定める範囲の中で、ワイパーの可動範囲に本製品を取り付けてください。
●本製品の近くにGPS機能を持つ製品やETC車載器、VICS受信機を設置しないでください。まれに誤作動を起こす可能性があります。
●本製品から50cm以内にTVアンテナ（地デジ含む）等、放送受信アンテナを設置しないでください。受信感度の低下やチラツキ・ノイズの原因となる可能性があります。

最初に、すべての部品が揃っていることを確認し、本取扱説明書をよく読んだうえで、取り付け手順に従って本製品を取り付けてください。

1.本製品を取り付ける際には、車を水平な場所に止めてください。
2.本製品の取り付け位置は、運転者の視界を妨げない場所を選んでください。
3.本製品を取り付ける際、ルームミラーの調整に邪魔にならない場所を選んでください。
4.本製品を取り付ける前に、フロントガラスの取り付け部を、乾いた布などできれいに掃除してください。
5.本製品を取り付ける場合は、エアバッグ等車内の他の安全装置に影響を与えないように注意してください。
6.本製品のレンズの前方に物やステッカーなどがあると、カメラの視野が妨げられ、安全運転機能が正しく作動しません。本製品の前方の視界を常に確保してください。
7.本製品の周囲に他の物が配置されていると、フロントガラスに映り込む恐れがあります。本製品の周囲には、物を配置しないでください。
8.一度取り付けたブラケットを取り外すと、テープの粘着力が著しく低下します。取り付ける前に、慎重に取り付け場所を確認してください。

※ドライブレコーダーは関係法令により取付位置が指定されています。

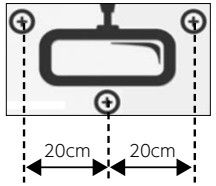
9.フロントガラス上端より1/5以内に収まるように本体を取り付けてください。その際、可能なかぎりワイパー可動範囲内（写真の点線内側部分）に本体が収まるようにしてください。また、安全運転支援機能を利用する場合は、フロントガラス中央から左右20センチ以内に本体が収まるように取り付けてください。

取り付け　取り付け手順

製品を取り付ける際は、必ず平坦な路上で行ってください。

❶

フロントガラスの上端1/5以内で、かつ、中央から左右20センチ以内の場所に本体を取り付けます。取り付ける部分のフロントガラス表面をきれいに拭いてください。



❷

本体上部ブラケットの両面テープの剥離紙をはがし、水平に取り付けます。取り付けの際は、力を入れてしっかりと圧着させます。

❸

電源ケーブルをシガーソケットに接続します。電源ケーブルは運転の妨げにならない位置に固定します。

❹

起動すると、音声とともに前方の映像が表示されます。本体横の「M」ボタンを押すか、画面上のホームボタンを押してメニュー画面を表示させてください。「セッティング」メニューを選択して、必要な初期設定を行ってください。

※安全運転支援機能が正しく作動するように、13～16ページの記載内容に従って、本体の取付位置、カメラ角度などの設定を行ってください。

❺

リアカメラを取り付ける場合は、同様にリアウィンドウ表面を拭き、適切な場所に取り付けてください。取り付ける際には熱線（デフォッガー）を避けてください。
リアカメラ本体の裏面にあるステッカーの「↑TOP」に合わせてブラケットが向かって左側に来るように取り付け、ケーブルを本体と接続します。ケーブルを接続する際は、本体の電源を切った状態で接続してください。
画面の表示を「後方」または「マルチ」にして、映像を見ながら画角を調節してください。

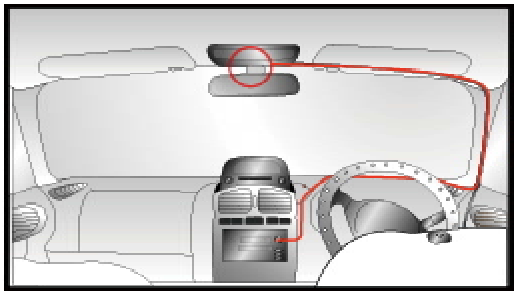
取り付け ケーブルの配線

電源ケーブルをシガーソケットに接続します。電源ケーブルを配線する際は、視界を妨げないように、同梱されているケーブルマウントを使用してください。ケーブルマウントの取り付け位置にきまりはありません。ご利用の環境に合わせてケーブルマウントを取り付けてください。

電源ケーブルの固定

本製品は付属の電源ケーブルで車両のシガーソケットに接続します。電源ケーブルは、運転の妨げにならない位置に付属のマウントを使うなどして固定してください。

※この図は、電源ケーブルの配線例です。エアバッグの展開や他の車載機器の影響を受けないように十分注意してください。



◆ マウントの使い方

1.マウント裏面の両面テープの剥離紙をはがして任意の位置に取り付けます。

2.取り付けられたマウントに電源ケーブルを挟みます。

⚠重要 シガーソケット以外から電源をとった場合、本製品の企画者、製造者、販売者は一切の保証・責任を負いません。行う場合は自己責任にてお願いします。

リアカメラケーブルの固定

リアカメラケーブルを本体の右上にある接続口にケーブルのジャックが見えないようにしっかり挿して接続します。リアカメラケーブルは、電源ケーブルとともに、運転の妨げにならない位置に固定してください。前席から後席へは、フロアマットの下を通すことをお勧めします。

× 悪い例　○ 良い例

※リアカメラケーブルの設置場所には十分ご注意ください。電波を発する機器の近くには設置しないようにしてください。ノイズによる干渉でカーナビのGPSや地デジの受信に影響を与える場合があります。

※サイドカーテンエアバッグの近くにケーブルを設置しないでください。エアバッグ展開時におもわぬ事故につながるおそれがあります。

※リアカメラのケーブルを本体に接続する場合は、本体の電源が入っていない状態で行ってください。

動作確認と初期設定 本体の起動

1. 設置位置に正しく取り付けられていることを確認してください。
2. ルームミラーの動きを妨げない位置に設置されていることを確認してください。
3. 本体の角度が地面と垂直に近くなっていることを確認してください。
4. エンジンもしくはアクセサリー電源を入れ、液晶画面にオープニング画面が出た後、起動音が鳴って「ロード中」画面になります。
5. 起動後、録画を開始するアナウンスとともに、自動的に常時録画がスタートします（初期設定）。

オープニング画面

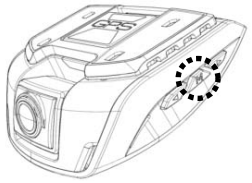
ロード中

* ロード時間はマイクロSDカードの状況によります。

動作確認と初期設定 車種設定

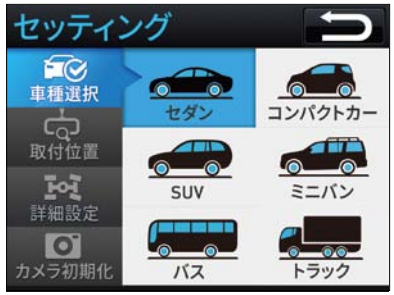
安全運転支援機能が正しく作動するように、車種とカメラ位置の設定を行います。

1. 起動後、本体横の「M」ボタンを押すか、画面上のホームボタンを押してメニュー画面を表示させます。



メニューボタン

ホームボタン



2. 「セッティング→車種選択」を選び、車種を選択してください。車種を選択すると、下記の表にあるプリセットされた値が設定されます。

車種	カメラ位置（地上高）	車幅
セダン	1.3m	1.8m
コンパクトカー（軽自動車を含む）	1.3m	1.6m
SUV	1.5m	1.9m
ミニバン	1.7m	1.9m
バス	1.6m	2.5m
トラック	2.5m	2.5m

⚠ 注意

- カメラ位置・角度の設定は、安全運転支援機能を正しく作動させるためにとても重要です。「車種選択」でセットされる数値はあくまでも平均値です。安全運転支援機能が正しく作動するように、次ページの「詳細設定」のメニューで正確な数値を設定いただくことをお勧めします。

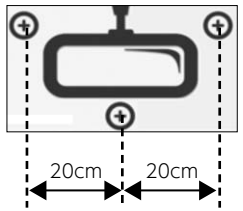
動作確認と初期設定 取付位置の設定

3. 「取付位置」メニューを選択します。

4. メニューの中から、本体の取り付け位置を、「左側」「中央」「右側」のいずれかから選択してください。

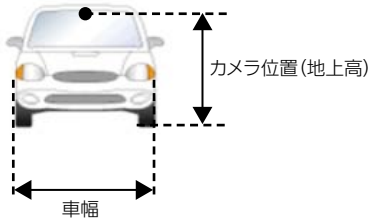
＊取付場所は車内における運転手の視野を基準にしています。

＊もし製品をフロントガラスの左/右に取り付けた場合、メニュー画面から当てはまる位置を選択し、フロントガラスの中心から何cm離れているかを計測して、その数字をメニュー画面から入力してください。



取り付け位置
（中央:0cm）

＊本体は、必ずフロントガラスの中央から左右20センチ以内に取り付けるようにしてください。20センチよりも離して取り付けた場合、車線を正しく認識できず、安全運転支援機能が適切に作動しません。



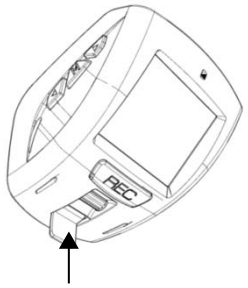
5. 「詳細設定」メニューを選択します。

6. カメラのレンズ位置を、地上高からはかり、その数値を「カメラ位置（地上高）」に入力してください。同じく「車幅」にも、実測値もしくは車検証記載の数値を入力します。

動作確認と初期設定 カメラ角度の設定

安全運転支援機能が正しく作動するように、カメラのレンズ角度を正しく調整します。

7. 「カメラ初期化」メニューを選択します。平坦な場所であることを確認し、「OK」ボタンを押してください。
8. 本体下部の角度調節器を開きます。画面の設定ガイドの矢印に従い、数値が緑色になるように内蔵のギアを動かして角度を調節してください。
9. 適切な角度になると、中央の設定ガイドが点滅し、アラーム音が鳴ります。「OK」ボタンを押して設定を終了してください。設定が終わったら、角度調節器の蓋をしっかりと閉めてください。



カメラ内部のセンサーが適切な角度を自動検出します。角度調節器を開いて内側のギアを回し、画面の表示ガイドの数値が緑色になるように調節してください。

動作確認と初期設定 リアカメラの設定（ミラーリング機能）

リアカメラには撮影した映像を左右反転させるミラーリング機能を搭載しています。

側面にあるスイッチを「N-R」で切り替えることで設定できます。

※「R」で撮影した場合、保存される映像も左右反転したものになります。

「N」（ノーマル）（初期設定）

「R」（リバース）

⚠ 注意

- ミラーリング機能はあくまでも映像を確認するための機能です。リアビューカメラとしての使用を勧めるものではありません。後退時は障害物や歩行者の有無を必ずミラー及び目視で確認して安全運転を心がけてください。

主な機能 前方衝突警戒

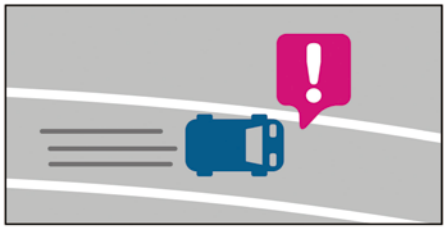
前方衝突警戒は、前を走行する車両（前車）と衝突（主に追突）するリスクを検出した際に警報を発する機能です。

1. 前方衝突警戒は自車の走行速度が作動設定速度を上回ったときに作動します。
   ・初期作動設定速度 :時速30km
   ・前方衝突警戒の作動速度は、「安全運転支援→前方衝突警戒→作動速度」メニューにて、時速20～80kmの間で設定ができます。
2. 前方衝突警戒は、前車と衝突する危険がある際の「衝突危険警報」と、前車と安全な車間距離を保持するように促す「車間距離警報」の2種類の警報を行います。
   「衝突危険警報」：前車との距離と相対速度を計算して衝突する危険がある際に「ピピピ」というアラーム音で警報します。
   「車間距離警報」：自車の速度と前車との距離を計算して安全な車間距離が確保できるように「前方に注意してください」と音声メッセージで案内します。
3. 前方衝突警戒の検出レベルは、「運転支援→前方衝突警戒→アラーム感度」メニューにて、「高」「中」「低」の3段階で設定ができます。

⚠ 注意

- 前方衝突警戒はGPSデータが受信できる状況で機能します。GPSデータが受信できない場合は機能しません。
- GPSデータによる車速は実際の走行速度と最大で1秒程度の乖離が生じます。仕様上、すでに減速するなど衝突の恐れが減少した場合でも、タイミングのずれで警報を発する場合があります。
- 車線変更中は前車を検知しないため、衝突のリスクがある場合でも警報を発しません。
- 前方衝突警戒は、画像処理により前車を検知します。紛らわしいシルエットを誤認識して警報を発する場合があるほか、前車の形状や環境要因が原因で正しく検知できない場合があります。
- カメラ位置・角度が正しく設定されていない場合は、前方衝突警戒が正しく機能しません。

主な機能 車線逸脱警戒



車線逸脱警戒は、高速走行中に車線を逸脱しそうになった場合に警報を発します。

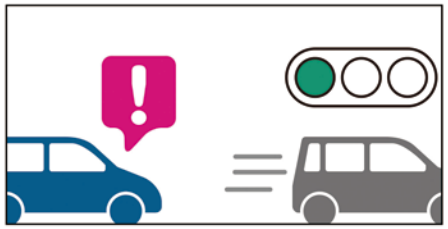
1. 車線逸脱警戒はGPSデータからの車両速度が作動設定速度を超えた際に作動します。
   ・初期作動設定速度：時速60km
   ・車線逸脱警戒が作動する速度は「安全運転支援→車線逸脱警戒→作動速度」メニューにて時速40～80kmの範囲で調節できます。
2. 車線逸脱警戒機能のアラーム感度は、「運転支援→車線逸脱警戒→アラーム感度（左）／（右）」メニューで、左右それぞれ「1」～「9」段階で変更できます。
3. 画面上に車線認識の有無を表示できます。「各種設定→システム設定→画面表示→運転支援」をオンにしてください。
4. 車線逸脱警戒の警報は、「警告音+メッセージ」と「警告音のみ」のいずれかを設定可能です。また、警報の音量も設定可能です。

ウインカーと連動していないため、仕様上、車線変更時にも警報が鳴ります。

⚠ 注意

- 車線逸脱警戒はGPSデータが受信できる状況で機能します。GPSデータが受信できない場合は機能しません。
- 本製品はGPSデータから車速を計測しています。車種によっては、実際の車速とメーターで表示される車速が異なる場合があり、本製品で表示される車速とも異なる場合があります。
- 車線逸脱警戒は車線を認識した状態で2秒以上走行すると作動します。
- 白色または黄色の直線または破線以外の形状の車線は認識できない場合があります。
- 積雪などで車線を検出できない場合は機能しません。
- カメラ位置・角度が正しく設定されていない場合は、正しく車線を検出できません。

主な機能 前車発進お知らせ



前車発進お知らせは、信号や渋滞などで停車しているときに前車が発進したことをアラーム音で知らせる機能です。

1. 前車発進お知らせ機能は路上で静止している時のみ作動します。
2. 信号待ちの際の前車の動きを検知して警報を発します。
3. 渋滞中に自車が前車により近づいたときにも警報を発します。
4. 前車発進お知らせの警報は、「警告音+メッセージ」と「警告音のみ」のいずれかを設定可能です。また、警報の音量も設定可能です。

⚠ 注意

- 前車発進お知らせはGPSデータが受信できる状況で機能します。GPSデータが受信できない場合は機能しません。
- 前車発進お知らせは、画像認識により、前車のブレーキランプの点灯・消灯を検出して警報を発します。
- **前車のブレーキランプが故障等で点灯しない場合は機能しません。また、仕様上、前車が発進せずにブレーキランプを消灯させた場合にも警報を発します。**

主な機能 ドライブレコーダー機能

フロントカメラで前方の交通状況を映像で記録します。衝撃検知で自動録画するほか、リアカメラをリアウィンドウに接続すると、後方の交通状況等も映像で記録します。

1. フロントカメラにて、常時、前方の交通状況をフルHD画質で録画します。
2. 録画方法は以下の3モードです。
   - 常時録画: 30秒ごとにファイルを作成し、SDカード内の「NORMAL」フォルダーに絶え間なくデータを保存していきます。
   - イベント録画: 衝撃を検知したり、「REC」ボタンを押すと、その時点を中心に、15秒前から15秒後までの30秒間の映像を「EVENT」フォルダに保存します。
3. フロントカメラの記録映像は、画像解像度を「最高画質（1080p）」「高画質720p）」「標準画質（480p）」の三段階で設定可能です。画像解像度を落とすと、記録可能な件数が増えます。
4. 別売のリアカメラを接続することで、後方の交通状況等も録画できます。リアカメラの映像は「標準画質（480p）」のみとなります。
5. ドライブレコーダー機能は、車内の音声も記録します。音声の記録は、「ドライブレコーダー→基本設定→音声記録」でオン/オフの設定が可能なほか、音声の録音レベルも調整可能です。
6. 本体の液晶画面にて、撮影した映像を再生することが可能です。
7. 映像には、GPSデータによる撮影時刻と緯度・経度情報を記録します。ドラドラ6・ビュアーでは、映像再生とともに、GPSデータをもとに、撮影場所をオンライン地図上に表示することができます。
8. ドラドラ6は、事故時に電源ケーブルが外れた場合に、直前までの映像データを保存するバックアップ電源を搭載しています。。イベント録画中（常時記録オフ）に電源がシャットダウンされた場合、バックアップ電源によりシャットダウン直前までの映像データを「LATEST」フォルダに保存します。

⚠ 注意

- リアカメラの接続は、本体の電源が入っていない状態で行ってください。本体が起動中にリアカメラを接続する場合は、いったんメニュー画面で本体側の録画を停止してから接続を行い、録画を再開してください。
- LED式の信号機を撮影した場合、灯火が点滅して記録されたり、消灯して記録されることがあります。
- 地図表示は、オンラインサービスのGoogle Maps®を使用します。ドラドラ6・ビュアーをお使いのパソコンがインターネットに接続されている必要があります。

基本的な使い方 電源のオン／オフ

電源オン

電源ケーブルを接続し、エンジンを始動すると（車両のイグニッションスイッチが入り、電源ケーブルから給電されると）、本製品の電源が自動的に入ります。

- 外国車等の常時給電式のシガーソケットの場合は、電源ケーブルの接続と同時に電源が自動的に入ります。

電源オフ

エンジンを止めると（車両のイグニッションスイッチを切り、電源ケーブルからの給電がなくなると）、本製品の終了処理が自動的に始まり、電源が切れます。

- 外国車等の常時給電式のシガーソケットの場合は、電源ケーブルを外すまで電源は自動的に切れませんので、車両のバッテリー上がりなどにご注意ください。

※車のエンジンを切っても、本製品の終了処理が完全に終わるまでSDカードの抜き差しはしないでください。記録したデータが損傷する原因となります。

基本的な使い方 液晶画面の表示

液晶画面に表示される情報の切り替え方を説明します。

カメラモードの画面

実写映像に安全運転支援機能に関する情報を重ねて表示します。

●REC	録画中であることを示します。
衝突予想秒数	前車が検知されると、衝突までの予想時間を表示し（この例では0.7秒となります）、衝突の危険を検知すると数値が赤に変わり、警報を発します。
車速	GPSデータによる車両の速度です。
———	水平ラインです。
	検知された車線境界線を表します。車線逸脱警戒のシグナルが出ると、緑から赤に変わります。
	衝突危険警報が作動した場合に表示されます。

メニューボタン

ホームボタンを押すと、基本メニューに切り替わります。
※基本メニュー画面の表示中は、安全運転支援機能およびドライブレコーダー機能は中断します

モニタリングボタンを押すと、前方、後方、マルチ画面に切り替えることができます。
※後方及びマルチ画面はリアカメラ接続時のみ有効です。

前方衝突警戒のオン/オフを設定できます。

車線逸脱警戒のオン/オフを設定できます。

前車発進お知らせ機能のオン/オフを設定できます。

安全運転支援モードの画面

アニメーションで表示します。

- カメラモードで液晶画面をタッチすると、安全運転支援モードの画面になります。
- 安全運転支援モードの画面は、衝突までの予想時間とともに前車の検知と車線境界線をアニメーション表示します。
- 安全運転支援モードの画面をタッチすると、液晶画面の省エネモードになり、もう一度画面をタッチすると、カメラモードの画面に切り替わります。
- 画面表示モードを切り替えても、安全運転支援機能やドライブレコーダー機能で作動中の動作は中断しません。

基本的な使い方 基本メニュー画面

本体横にある「M」ボタンを押すか、画面上のホームボタンを押すと、基本メニュー画面が表れます。

- 基本メニューのアイコンをタッチすると、それぞれに対応した設定メニューに移行します。
- 基本メニュー画面の操作中は、ドライブレコーダー機能による映像記録は中断され、その間の映像を記録することはできません。
- 基本メニュー画面の操作は、必ず車を安全な場所に停車させて行ってください。

1.「**安全運転支援**」・・・前方衝突警戒・車線逸脱警戒・前車発進おしらせ各機能のオン/オフと、アラーム感度の設定などを行います。
2.「**ドライブレコーダー**」・・・常時録画のオン/オフ、音声記録、衝撃検知レベルの設定を行います。
3.「**映像再生**」・・・ドライブレコーダー機能で記録した映像を液晶画面上で再生します。
4.「**各種設定**」・・・・アラーム音や録音レベルの音量設定、SDカードのフォーマット、画面設定やシステム情報の確認を行います。
5.「**セッティング**」・・・車種の選択や取り付け位置の設定、カメラ角度の設定を行います。
6.「**設定終了**」・・・カメラモード画面もしくは安全運転支援モードの画面に戻り、安全運転支援機能及びドライブレコーダー機能を再開します。

基本的な使い方 安全運転支援

電源を入れると、あらかじめ設定された内容で各機能が作動します。設定内容は機能ごとにカスタマイズすることができます。カスタマイズしないで初期設定のまま使用することもできます。

設定を変更する場合は、メニュー画面で運転支援のアイコンをタッチすると設定画面に移行し、各機能右側のボタンでオン/オフを切り替えることができます。さらに、メニュー画面の左側にあるボタンをタッチすると各機能の設定画面が表示され、カスタマイズできます。

また、各機能の警報の選択（「警告音+メッセージ」または「警告音のみ」）や音量調整については、基本メニュー画面の「各種設定」から行うことができます。

設定方法 （詳細はP.27参照）

基本的な使い方 ドライブレコーダー

電源を入れた後の動作を設定できます。
設定をカスタマイズすることができます。カスタマイズしないで初期設定のまま使用することもできます。

設定を変更する場合は、メニュー画面でドライブレコーダーのアイコンをタッチすると設定画面に移行し、さらに、メニュー画面の左側にあるボタンをタッチするとそれぞれの設定画面が表示され、カスタマイズできます。

設定方法 （詳細はP.28参照）

- **常時録画の設定：**SDカード内に絶え間なくデータを保存する録画方法です。オフに設定すると、イベント録画または手動録画で映像記録を行います。（イベント録画についてはP.20参照）

- **音声記録の設定：**車内の音声を記録できます。音声なしの映像にする場合は、オフに設定します。また、録音の音量調整は、メニュー画面の各種設定から行うことができます。

- **衝撃検知レベルの設定：**衝撃を検知した時点を中心に、前後合計30秒間の映像を「EVENT」フォルダに保存します。衝撃検知のレベルは、前後・左右・上下それぞれについて0.1～1.9の19段階で設定可能です。

- **画像解像度の設定：**フロントカメラで録画する解像度を設定できます。解像度が高いと画像は鮮明になりますが、録画時間は短くなります。（詳細はP.28参照）

・前の画面に戻ります。

基本的な使い方 映像再生

ドライブレコーダー機能で記録した映像を液晶画面上で再生します。

1.常時録画/イベント録画

- **常時録画**:連続記録された動画を再生できます。
- **イベント録画**:衝撃検知のイベント録画と「REC」ボタンによる手動記録の動画を再生できます。

- ファイルを画面上でタッチするとファイルを選択でき、再生ボタン(矢印)を押すと、再生が始まります。

- 前の画面に戻ります。

- ストップボタン を押すと, ファイル選択ページに戻ります。

- ページの切り替えを行うことができます。

- 選択したファイルを再生します。

機能設定 安全運転支援

安全運転支援機能の各種設定を行います。

1.安全運転支援機能に関する設定

- 画面に表示される各機能のオン/オフを設定できます。初期設定はすべてオンです。画面右側にあるボタンでオン/オフを切り替えます。

2.前方衝突警戒

- **作動速度**:赤矢印を押すと調節できます。初期設定は時速30kmです。時速20～80kmの間で調整が可能です。
- **車間距離警報の設定**:車間距離警報のオン／オフが設定できます(初期設定はオン)。オフにすると衝突危険警報のみが有効となります。
- **アラーム感度**:「高」「中」「低」の3段階で設定可能です。感度を上げると、より早い段階で警報を発します。

3.車線逸脱警戒

- **作動速度**:赤矢印を押すと調節できます。初期設定は時速60kmです。時速40～80kmの間で調整できます。
- **アラーム感度**:数字を大きくするとより早めに警報を発するようになります。数字を小さくすればするほど、警報のタイミングが遅くなります。

- 前の画面に戻ります。

機能設定 ドライブレコーダー

ドライブレコーダー機能の各種設定を行います。

1.基本設定

- 起動後に常時録画を自動でスタートするか設定します。初期設定はオンです。オフにした場合は、イベント録画または手動記録でのみ映像記録行います。
- 音声入りで映像を記録するか設定できます。オフにすると、音声なしの映像として記録されます。初期設定はオンです。
- 衝撃検知レベル :衝撃検知によるイベント録画の作動レベルを設定します。X（前後）・Y（左右）・Z（上下）の3軸に対して、それぞれ0.1～1.9の19段階で設定が可能です（初期設定は3軸ともに0.7）。数値を小さくすると衝撃検知の感度は高くなり、小さな衝撃でもイベント録画が作動するようになります。逆に数値を大きくすると衝撃検知の感度は低くなり、大きな衝撃の場合だけイベント録画が作動するようになります。

※トラック・バスなどの場合はZ軸（上下）の数値を大きくすることでタテ揺れによる誤検出を減少させることができます。

2.画像解像度

- フロントカメラで録画する映像の解像度を設定できます。
- データは割り当てられたマイクロSDカードの中に保存されます。録画できるファイル数はマイクロSDカードの容量によって変化します。

解像度	常時録画（SDカード内のフォルダ名：「NORMAL」）	イベント録画（SDカード内のフォルダ名：「EVENT」）
最高画質	100分	30分
高画質	180分	50分
標準画質	700分	200分

＊ 製品付属のマイクロSDカード（16GB）の場合

機能設定 各種設定

音声の設定やSDカードのフォーマット、液晶画面の表示設定、使用言語の変更などを行います。

1.音量調節

- 「**アラーム音量**」　安全運転支援機能や各種案内の音量を16段階で調節できます。初期設定は「13」です。0～15の間で調整可能です。「0」にした場合は、音での警告や案内がなくなります。
- 「**録音レベル**」　ドライブレコーダー機能で録画する際の音量を16段階で調節できます。初期設定は「12」です。0～15の間で調整可能です。「0」にした場合は、記録される映像は音声なしの動画になります。

2.アラーム音声

- 「**イベント録画**」　衝撃検知や「REC」ボタンを押してイベント録画が作動したことをアラーム音とともに音声メッセージでも案内します。初期設定は「オン」です。オフにすると、音声メッセージなしでアラーム音のみとなります。
- 「**前方衝突警戒**」　衝突の危険性を検知した際に、アラーム音とともに音声メッセージで警告を発します。初期設定は「オン」です。オフにすると、音声メッセージなしでアラーム音のみでの警告となります。
- 「**車線逸脱警戒**」　車線逸脱を検知した際に、アラーム音とともに音声メッセージで警告を発します。初期設定は「オン」です。オフにすると、音声メッセージなしでアラーム音のみでの警告となります。

・前の画面に戻ります。

3.SDカードフォーマット

・マイクロSDカード内に記録された映像やシステム設定を含む全データを消去します。
※フォーマットは記録された全てのデータを消去しますので、データはあらかじめパソコンや別のメモリーカード等にバックアップすることをお勧めします。
※SDカードのフォーマットは、ドラドラ6・ビュアーで行うことも可能です。
※SDカードのフォーマットは、できるだけ「SDカードフォーマット」メニューもしくはドラドラ6・ビュアーで行ってください。それ以外のフォーマット方法によってSDカードをフォーマットした場合、仕様の違いで正しく動作しないおそれがあります。

4.システム設定

・**「画面設定」　液晶画面に表示するカメラ映像の種類とサスペンドの設定を行います。**

・「**表示映像**」は「前方」「後方」「マルチ」の3種類です。初期設定は「前方」です。
※「後方」及び「マルチ」は、リアカメラを接続しているときに有効です。

・「**サスペンド設定**」　イベント録画が作動した時以外は液晶画面を消灯します。初期設定はイベント録画作動後「30秒」で消灯するように設定しています。「常時」に設定すると、消灯せずに、液晶画面は常にカメラ映像等を表示します。
※運転中の液晶画面の注視は法令により禁止されています。「常時」表示に設定変更する場合は、運転操作に影響がないようにご注意ください。

・「**画面表示**」　初期設定では、液晶画面上に表示される前方映像に、車速・前車及び車線検出・水平ライン等の情報が表示されます。これらの表示のオン/オフを個別に設定することが可能です。また、車速の速度単位を「km/h」「mph」の切り替えも可能です。

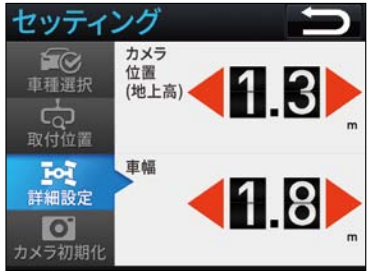
・「**言語**」　液晶画面の表示や音声メッセージを日本語もしくは英語に変更できます。初期設定は「日本語」です。

・「**システム情報**」　システムのバージョン情報を確認できるほか、システムをリセットする（工場出荷時の状態に戻す）ことができます。

・前の画面に戻ります。

機能設定 セッティング

安全運転支援機能が正しく作動するように、車種とカメラ位置の設定を行います。



設定方法は14～16ページを参照してください。

⚠ 注意

- カメラ位置・角度の設定は、安全運転支援機能を正しく作動させるためにとても重要です。メニュー画面に従って正確な数値を設定してください。
- ドラドラは安全運転支援機能を作動させるために、初期設定後もしくはカメラ再設定後、しばらくの間、本体のキャリブレーション及び画像認識の学習を行います。キャリブレーション中は安全運転支援機能は作動せず、画像認識の学習中は安全運転支援機能の作動が不安定になる場合があります。キャリブレーション及び学習は、走行開始後、最大で10分程度かかる場合があります。

機能設定 カメラ角度の手動調整

16ページの方法でカメラ角度が正しく設定ができない場合は、画面上に表示される水平ラインに地平線を合わせる形で手動で設定も可能です。

1. 車両を平らで見通しのよい場所に駐車します。
2. 本体の電源を入れ、液晶画面上に表示される水平ラインが地平線に合うように調整します（地平線の良く見える場所で角度調節することをお勧めします）。
3. カメラの角度調節器を開いて、内側のギアを回し、水平ラインと地平線が重なるように調節します。
4. 調整が終わったら、角度調節器の蓋をしっかりと閉めてください。

カメラの角度調節器を開いて、内側のギアを回して水平ラインと地平線が重なるように調節ください。

OK!

- **正しく角度調節した様子**
  地平線と水平ラインが重なっている。

NG

- **角度調節が甘い場合 1**
  水平ラインが地平線の上にある。

NG

- **角度調節が甘い場合 2**
  水平ラインが地平線の下にある。

⚠ 上記画像はあくまでイメージです。
角度調節する際には安全な場所で行ってください。

ドラドラ6・ビュアー 画面構成

ドラドラ6・ビュアーを利用することで、ドライブレコーダー機能で録画した映像をパソコンで再生できます。また、録画時の車速や加速度、撮影場所も確認できます。

❶メイン画面
❷サブ画面（リアカメラ接続時に使用）
❸撮影地点表示（※1）
❹安全運転支援機能
❺メニューボタン
❻動画再生ボタン
❼再生バー
❽音量
❾車速（※2）
❿方位磁針（※2）
⓫録画日時・緯度経度情報（※2）
⓬加速度センサーデータ：衝撃レベルと速度グラフ（※2）
⓭ファイル一覧表示ボタン
⓮ファイル一覧
⓯常時録画/イベント録画
⓰ファイル並び替え（昇順・降順）

（※1）映像が録画された場所を地図上に表示します。ご使用の際はインターネットに接続し、オンライン地図（google Maps®）を読み込み可能な状態になっている必要があります。
（※2）録画時にGPSデータを受信している場合にのみ利用可能です。

主なボタンの説明

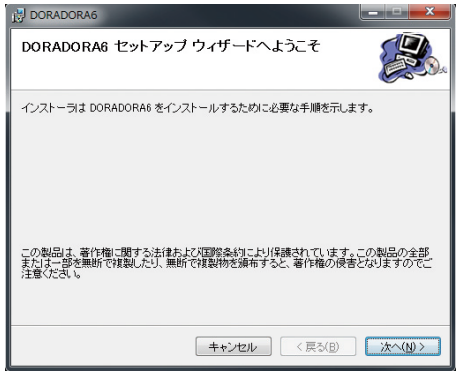
ファイルを開く
SD カードを開く
動画再生画面を拡大する
動画再生画面を縮小する
メイン画面とサブ画面を切り替える
SDカードをフォーマットする
設定
ドラドラ6・ビュアーの画面を印刷する
加速度/衝撃/速度の各グラフを詳しく見る
加速度と加速度センサーボタンを切り替える
加速度センサー衝撃ボタンから速度ボタンに切り替える
速度ボタンから加速度ボタンに切り替える
再生中の動画を選択されたフォルダにコピーする
ドラドラ6・ビュアーのバージョン情報

停止
一つ前のファイルを再生
再生ボタン
一時停止
次のファイルを再生
X1 X2 再生速度切り替え
※ボタンをクリックすると切り替わります

Normal 常時録画のファイル一覧
Event イベント録画のファイル一覧
All すべての録画ファイル

ドラドラ6・ビュアー インストール方法

ドラドラ6・ビュアーを利用することで、ドライブレコーダー機能で録画した映像をパソコンで再生できます。また、録画時の車速や加速度、撮影場所も確認できます。



1. パソコンに付属のCD-ROMを挿入してください。
2. SETUPプログラムを起動させ、案内に従ってインストールしてください。
3. インストールが終わると、ドラドラ6・ビュアーのアイコンがデスクトップに現れます。

＊セットアッププログラムを起動時に、セキュリティの警告が出る場合がありますが、そのままインストールを進めていただいてかまいません。

インストールする際は、CD-ROM内の「**setup.exe**」ファイルをクリックしてください。

推奨PC環境

- **OS** : Windows XP(32bit), Windows Vista(32bit), Windows 7(32/64bit), Windows 8(32/64bit)
- **Computer H/W** : Pentium4 2.8GHz 以上 / 1G RAM 以上
- **ブラウザ**: Microsoft Internet Explorer 7.0 以上
- **Direct X version** : Direct X 9.0 以上

※ドラドラ6・ビュアーの最新版は、JAFMATE社のホームページ(http://www.jafmate.co.jp/dr/)からダウンロードいただけます。
※DD-01/DD-03用のドラドラ・マネージャー、DD-04用のドラドラ・マネージャーHDはご利用いただけません。必ず付属のドラドラ6・ビュアーをご利用ください。

SDカードの取り扱いに関する注意

SDカードの取り扱いにご注意ください。不適切な取り扱いを行うと、記録データが消失・破損する恐れがあります。
また、SDカードは消耗品です。定期的に買い換えてください。SDカードが寿命に達した場合、エラーが発生し、映像を記録することができなくなります。

SDカードは消耗品です

SDカードは書き込み回数に寿命があります。ドライブレコーダーは高画質の映像データを常に書き込み続けるため、一般的なデジタルカメラ等に比べて、SDカードの寿命は非常に短くなります。定期的に買い換えることをお勧めします。

※おおよそ1日8時間程度の走行を毎日続けた場合は2か月間ごとに、週末のみの走行の場合は半年～1年ごとに買い換えることをお勧めします。

SDカードの挿入/取り外し

SDカードを挿入/取り外しのときは、電源が切れていることを確認してください。電源が入ったまま取り出すと、記録データが消失・破損する恐れがあるほか、本体の故障の原因にもなりますのでご注意ください。また、取り出す際に手から落とさないようにご注意ください。マイクロSDカードはとても小さいので、車内で落とすとシートの隙間などに入り込みやすく、拾い上げることがとても困難です。

定期的にデータをフォーマットしてください

1週間から2週間に一度、定期的にSDカードのデータをフォーマットをしていただくことで、SDカードのエラー発生の可能性を低減させ、SDカードの寿命を延ばすことができます。SDカードのフォーマットは、本体のメニュー画面もしくはドラドラ6・ビュアーをご利用ください。

データのバックアップ

時間の経過と共に記録されたデータは消えてしまうおそれがあります。大切なデータはパソコンなどに保存しておくことをお勧めします。

故障かな?と思ったら

Q 電源が入らない・製品が起動しない

- 電源ケーブルが正しく接続されているか確認してください。(→12ページ)

Q 起動後に音が出ない

- ボリュームを確認してください。(→29ページ)

Q SDカードを認識しない

- SDカードが正しく挿入されているか確認してください。
- SDカードをフォーマットしてください。(→30ページ)

Q 液晶画面が消えてしまう

- サスペンド設定を確認してください。(→30ページ)

Q 安全運転支援機能が作動しない

- 設定メニューで機能をオフにしていないか確認してください。(→27ページ)
- GPS信号を正しく受信しているかどうか、速度表示の有無を確認してください。(→22ページ)
- 走行速度が作動設定速度に達しているか確認してください。(→27ページ)
- カメラの取付位置とレンズ角度が正確か確認してください。(→14～16ページ)

Q 警告するタイミングが遅すぎる/早すぎる

- カメラの取付位置とレンズ角度が正確か確認してください。(→14～16ページ)
- 各機能の感度を確認してください。(→27ページ)

Q イベント録画が作動しない／頻繁に作動し過ぎる

- イベント録画の設定を確認し、衝撃検知レベルを調整してください。(→28ページ)
- 本体がしっかりと取り付けられているか(ぐらつきがないか)確認してください。

Q PCでマイクロSDカードを読み込めない

- マイクロSDカードアダプターやカードリーダーが正しく動作しているか確認してください。

製品仕様

外形寸法	本体	100(W)x82(H)x42(D)mm　取付ブラケットを含めた全高は100mm以内
	リアカメラ※	54(W)x31(H)x28(D)mm
本体重量		155g
記録媒体		マイクロSDHCカード Class10 16GB(32GBまで使用可)
撮像素子		1/2.9型CMOSセンサー
最大記録画角		本体=水平110°、垂直60°、対角130°／リアカメラ※=水平80°、垂直60°、対角120°
最大記録映像サイズ	本体	1920x1080ピクセル、27フレーム/秒 (FHD)
	リアカメラ※	640x480ピクセル、30フレーム/秒
GPS		あり
加速度センサー		あり(衝撃検知レベルは3軸に対してそれぞれ19段階で設定可能)
記録方式		常時録画／イベント録画　30秒単位／音声あり・なし
液晶画面		2.4インチ QVGA TFTタッチパネル
映像ファイル形式		H.264 / .AVIファイル
記録映像再生方法		液晶画面上での再生またはPCによるドラドラ6・ビュアーでの再生
電源電圧		DC 12V/24V
最小稼働電圧		DC 9V
最大稼働電圧		DC 32V
最大電力消費量		5.6W
作動温度範囲		-20℃～70℃
保管温度範囲		-40℃～85℃
最低検知照度		1lux

※リアカメラは別売です。

ドラドラ6・ビュアーの推奨PC環境	
OS	XP(32bit), Vista(32bit),Windows7(32/64bit),Windows8(32/64bit)
Computer H/W	Pentium4 2.8GHz 以上/1G RAM 以上
ブラウザ	Microsoft Internet Explorer 7.0 以上
Direct X version	Direct X 9.0 以上

●本欄はドライブレコーダー協議会の表示ガイドラインに基づく記載を行っています。